

水災害から命を守る ～全学横断的研究の重要性～

木村 隆彦

救急救命学講座 救急救命学ユニット

豪雨時に住民が自宅や高齢者施設に留まり、洪水流の建物浸入で溺死する事例が報告されている。強い流れよりも浸水深が課題であり、浮いて呼吸を確保する水難時生還策を応用した、「救命胴衣を活用した緊急安全確保行動」が生還に繋がる。ただ、過去の事例をみると、水災害溺死者には避難行動要支援者が多く、住民による救命胴衣を活用した避難行動の検討では、長期臥床者や認知症者等を視野に入れた着用介助や用品改良と共に、住宅や高齢者施設の事情を考慮した居住者目線での議論が必要となる。つまり、真の災害時行動の確立は、防災や救急救助だけではなく、肢位や強張り、病態を熟知した研究者、医療現場の医療従事者やケアマネージャー、介護士などの様々な知見の統合が重要で、横断的研究によってこそ成し得るものである。

中山間地域における地（知）の拠点整備

〔大学 C0C (Center of Community)〕 事業 2.0 を目指した取り組みと研究

諫山 憲司

救急救命学講座 救急救命学ユニット

生態系のアンバランスから大小の自然災害が頻発しており、備えるには公助に頼る防災ではなく、持続的なコミュニティを主体とした地域防災力が求められる。しかし、南丹市の高齢化率は全国平均を大きく上回り、農林業の担い手も高齢化し、若者の労働力不足が否めないだけでなく、草刈り等の農作業中の熱中症による重症化も危惧される。一方、若者は全国的に都市化が進むなか自然から隔離され、全身の倦怠感や不眠など体調不良が引き起こされることが指摘されている。

本学を南丹市や隣接市の地（知）の拠点として、生態系を活用した災害対策（Eco-DRR）を中心に、地域課題に対応する拠点整備と構築を目指した取り組みと研究を推進する。